

「循環型」「自立・持続」まちづくり「新づぶ」

日本共産党市議団視察報告①

日本共産党鶴岡市議団は、9日から11日まで3日間、岩手県紫波町、同県住田町、同県陸前高田市、秋田県藤里町の4自治体を行政視察しました。

開発を行うことを目的とした「紫波町公民連携基本計画」を議決し、とりくみがすすめられました。

新設駅に官民複合施設「オガール・プロジェクト」

―岩手県紫波町―

岩手県紫波町は、盛岡市と花巻市の間に位置する人口約3万3千人の町です。1998年に新駅設置運動が実現し、「紫波中央駅」が開業し、紫波町はまちの中心部・紫波中央駅前の土地10・7畝の土地を、28億5千万円で購入しましたが、当時は土地を開発できず費用がかさみ「日本一高い雪捨て場」と言われ、事実上計画が凍結の状態になりました。

「循環型まちづくり条例」制定

2001年6月に「紫波町循環型まちづくり条例」が制定されました。「循環型まちづくり」とは、3つの資源循環を基本とし、
①有機資源循環↓農業を産業とする紫波町の元気な土づくり、地産地消の推進
②森林資源循環↓町産木材を利用した公共施設・住宅の建築など
③無機資源循環↓焼却ごみの削減をすすめることを目的としたものです。

「おがる」+「駅」官民複合の「オガールプラザ」

「オガール・プロジェクト」とは、「おがる(成長)」と、駅を意味するフランス語の「ガール」の2つの言葉の造語で、官民複合施設のオガールプラザには、公共施設の図書館、地域交流センター、子育て応援センターと、民間施設として産直(会員320人)、歯科・眼科クリニック、カフェ、居酒屋等、民間複合施設のオガールベースには、ビジネスホテル、日本初のバレーボール専用体育館、コンビニ、薬局、紫波スポーツアカデミー(バレー・サッカー)などの施設が運営されています。

町産木材使用、ゼネコンに発注せず

それぞれの施設に町産木材が利用されており、住宅地であるオガールタウンの住宅には町産木材の端材である

木質チップを利用した暖房・給湯システムが採用されています。

「紫波町循環型まちづくり条例」に基づきゼネコンへの受注は行っていないとのことでした。

紫波中央駅前に、図書館、産直マルシェ、子育て応援センター、カフェ、貸スタジオなどを備えた施設と、ホ

テルやバレーボール専用体育館を備え、また、バーベキューなどを楽しめる「オガール広場」があり、年間約80万人が訪れる場所となっています。

紫波町のオガールプロジェクトは、「持続可能な循環型のまちづくり」として可能性がある取り組みと感しました。

「森林・林業日本一のまちづくり」を策定

―岩手県住田町―

岩手県住田町は、岩手県の南部に位置し、東に陸前高田市、西は奥州市と接しています。人口は約5500人、高齢化率は41%、町の面積の9割が森林で林業と畜産が基幹産業です。ここでは、森林・林業日本一の町づくりについて視察しました。

いできた地域が一体となった林業施策の展開を基盤に、先人から受け継いだ貴重な財産を後世に引き継ぐことと、林業の振興により地域の活性化をめざしています。

日本一へ向け4つの取り組み

日本一に向けた取組として、

①川上(林家)生産者(から川下(消費地)までの木材流通システムの確立―工務店の設立、木材加工を担う木工団地の整備

②木質バイオマスエネルギーの利用―木質ペレットボイラー・ストーブの導入、木質ペレットの製造

③森林環境教育の実践―森で遊び、学び、考える(2面につづく)



官民複合施設「オガールプラザ」内の紫波町図書館

(1面のつづき)

④FSC(森林管理協議会、国際的な森林管理の認証を行う)森林認証の推進―町内の森林認証林1万3923畝(会員382人)などの4点を進めています。

こうした取り組みの成果として、過去12年間で林業関係の雇用員数は、182人から281人(54%増)、売上高も44億円から82億円(86%増)に上昇しました。



地元産材を利用して建設された消防住田分署

町単独補助事業も森林整備事業、路網整備、担い手対策など手厚い支援を行っています。

廃材利用「地域新エネルギービジョン」

平成12年には「地域新エネルギービジョン」を策定し、工場から出る廃材、林地の残材などを「捨てればごみ、燃やせば資源」としてエネルギー利用の促進を図っています。

町営保育園の床暖房、

役場庁舎の冷暖房にはペレットボイラーが利用されています。

震災仮設住宅・公共施設に地元産材

東日本大震災では、震災発生3日後に地元産材を使った応急仮設住宅の着工

を決め、93戸3団地を造成しました。1棟あたり8㎡の地元スギ材を使用しています。

ほかに町役場をはじめ消防署や町営住宅など公共建築物も地元産材を利用して地元の大工(工務店)が建設しています。

住宅建築補助最大300万円

町民が住宅を建築す

る際には最大300万円、リフォームでは最大150万円の補助金が交付され、地域の資源を使いお金も地域で循環する取り組みを進めています。

木材は、人にも環境にも地球にも優しい素材であり、長く人間が活用してきました。

地域の資源を育て、その木材を使ってエネルギーとして、また、地域の人が家を建てる

「使い道がコロコロ変わる消費税には絶対反対」

消費税廃止各界連が宣伝行動



消費税廃止田川地区各界連絡会は15日、こ

止」の署名宣伝とシール投票を行いました。「使い道がコロコロ変わる消費税には絶対反対」「今でも苦しいのにこれ以上国民に負担させるなんておかしい」などの声が寄せられました。

「市民の会が結成され、運動が前進した」

「処分場考える市民の会」ごろうさん

市の一般廃棄物ごみ最終処分場の問題で結成された「大荒地内市ごみ最終処分場を考

る市民の会」は、7月に鶴岡市と合意書交わされ、地元同意も得て事業がスタートしたことから、13日にこれまで3年間の運動の経過と成果を振り返り、語り合う「ごろうさん会」を開きました。

市民の会の五十嵐淳一共同代表が「地元の人が有権者の過半数を超える署名を集めるなど頑張ったからこそまで来る事が出来た」と開会あいさつ。



3年間の運動を振り返りみんなで記念撮影

また、「この運動は皆川市長が9月の市広報コラムに地方自治は民主主義の学校である」と思いを語っている様に、重要な教訓を残し

た。その後、準備された芋煮を食べながら懇談・交流を深めました。会には、この間支援を続けてきた日本共産党市議団から菅井、坂本、山田の3人と、関とおる県議が参加し、一緒に運動の成果を確認しました。

| | |
|--|--|
| 建築課入札結果 () 内は予定価格 | |
| 10月11日入札分 | |
| ・市立保育園管理棟 鶴岡産木材購入(無垢材)(入札4業者) | |
| 出羽庄内森林組合 9,750,000円 期間~12/26 | |
| ・市農村センター下水道接続工事(矢馳字上矢馳258番地)(入札7業者) | |
| 羽黒設備(株) 3,700,000円(3,710,000円) 工期~12/20(落札率99.73%) | |
| 水道課入札結果 () 内は予定価格 | |
| 10月12日入札分 | |
| ・神明町、大東町地内径100・150耗配水管撤去工事(神明町、大東町地内) | |
| 中止 | |

約30分の行動で、シール投票では反対が41票、保留が2票、署名は41筆集まりました。菅井、坂本昌栄市議が参加しました。

ここで地域内での仕事おこし、経済も循環するといふ地域循環型社会を形成しています。鶴岡市も、東北地方で最大の面積を持ち、その約7割が森林です。しかし、中山間地の過疎化も進み「山全体が荒れている」状況がみられます。住田町のこうした取り組みを本市でも生かしていければと思いました。